

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成25年12月13日

【四半期会計期間】 第19期第2四半期(自 平成25年8月1日 至 平成25年10月31日)

【会社名】 株式会社アスカネット

【英訳名】 Asukanet Company,Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼CEO 福田 幸雄

【本店の所在の場所】 広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号

【電話番号】 082-850-1200(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役CFO 功野 顕也

【最寄りの連絡場所】 広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号

【電話番号】 082-850-1200(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役CFO 功野 顕也

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第2四半期 累計期間	第19期 第2四半期 累計期間	第18期
会計期間	自 平成24年 5月1日 至 平成24年 10月31日	自 平成25年 5月1日 至 平成25年 10月31日	自 平成24年 5月1日 至 平成25年 4月30日
売上高 (千円)	2,097,789	2,122,518	4,533,609
経常利益 (千円)	218,673	279,496	664,329
四半期(当期)純利益 (千円)	132,718	170,498	406,937
持分法を適用した 場合の投資利益 (千円)			
資本金 (千円)	490,300	490,300	490,300
発行済株式総数 (株)	4,366,000	4,366,000	4,366,000
純資産額 (千円)	3,074,640	3,408,788	3,363,613
総資産額 (千円)	3,605,626	3,949,076	3,967,763
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	31.70	40.73	97.20
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)		40.44	
1株当たり配当額 (円)			29.00
自己資本比率 (%)	85.3	86.3	84.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	218,366	295,976	654,047
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	278,156	236,362	489,949
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	118,757	130,467	154,659
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	756,291	873,408	944,258

回次	第18期 第2四半期 会計期間	第19期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 平成24年 8月1日 至 平成24年 10月31日	自 平成25年 8月1日 至 平成25年 10月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	9.79	16.95

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 当社には関連会社がありませんので、持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第18期および第18期第2四半期累計期間は潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融政策の効果などから円安や株高が進行し、輸出産業を中心に企業収益が改善するなど明るい兆しが見られたものの、消費税率の引き上げによる消費マインドの低下懸念などもあり、引き続き先行きは不透明な状況にあります。

当社が属しております葬祭市場、写真市場におきましても、先行き不透明感が拭えない状況が続いております。

景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するチャレンジングなビジネスであるパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

このような状況の下、メモリアルデザインサービス事業やパーソナルパブリッシングサービス事業では新サービスや製品のリリースを積極的に行い、エアリアルイメージング事業ではマーケティングや生産技術研究に重点的に取り組んでまいりました。あわせて、新しいサービスの研究も進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,212,518千円（前年同四半期比105.5%）となり、利益面につきましては、エアリアルイメージング事業の立ち上げや新サービスの研究等への先行費用が発生したものの、売上増による粗利益の増加に加え、パーソナルパブリッシングサービス事業において、販売手数料、広告宣伝費、販売促進費などが減少したため、経常利益は279,496千円（前年同四半期比127.8%）、四半期純利益は170,498千円（前年同四半期比128.5%）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、堅調な新規顧客獲得による遺影写真加工収入の増加に加え、ペーパー、インク、額などの消耗品やハード機器の売上も順調に推移しました。また、葬儀演出関連ツールの売上も増加いたしました。

10月には、遺影写真加工の安定的な供給体制をより強固なものとするため、3か所目の拠点としてびわこオペレーションセンターを滋賀県大津市に開設いたしました。

その結果、売上高は1,032,859千円(前年同四半期比106.1%)、セグメント利益は312,561千円(前年同四半期比103.1%)となりました。

(パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業におきましては、プロフェッショナル写真市場向けには、セミナーの実施や、前期に販売開始しましたZENレイフラットの拡販に注力するとともに、「オンデマウント」「URUSHI」などの新製品をリリースしました。一般消費者向けには、新しい判型の写真集の投入や簡単に発注できる「おまかせマイブック」サービスの開始に加え、スマホ向けサービスとして、写真切り出しアプリ「AfterShutter」やポラロイド風アルバム「patapata」をリリースしました。

北米向け売上は契約の見直しにより卸売方式へ変更したため売上が減少したものの、国内プロフェッショナル写真家向け売上、一般消費者向け売上とも順調に推移いたしました。特にZENレイフラットは好調でした。費用面につきましては、前期に実施した戦略的な広告宣伝費や販売促費が通常ベースに戻り、また、海外向け経費も減少いたしました。

その結果、売上高は1,167,092千円(前年同四半期比104.6%)、セグメント利益は202,104千円(前年同四半期比154.2%)となりました。

(エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、一昨年3月に開始した事業であります。

マーケティング面におきましては、試作品の販売を進めるとともに、10月には展示会CEATECに出展し、センサーとの組み合わせなどで具体的な活用シーンを提案し、キーテクノロジー部門準グランプリを受賞するなど多くの注目を受け、その後も各方面から問い合わせや引き合いを頂戴している状況です。また、生産面につきましては、従来と比べ、低価格での増産が可能になりましたものの、さらなる低価格化と大量生産を可能にする本格量産技術の確立に向けて活動しております。

その結果、売上高は12,566千円(前年同四半期比145.7%)、セグメント損失は41,321千円(前年同四半期は40,676千円の損失)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ18,686千円減少し、3,949,076千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が32,407千円増加する一方で、法人税等や配当の支払いなどにより現金及び預金が70,850千円減少したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ63,862千円減少し、540,287千円となりました。これは主に、前事業年度末に固定資産の購入などにより増加した未払金が75,325千円減少したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ45,175千円増加し、3,408,788千円となりました。これは主に、剰余金の配当として121,407千円計上した一方で、四半期純利益を170,498千円計上したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ70,850千円減少し、873,408千円となりました。なお、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動の結果獲得した資金は、295,976千円（前年同四半期は218,366千円の獲得）となりました。これは主に、税引前四半期純利益278,045千円、減価償却費135,333千円を計上した一方、法人税等の支払額110,191千円を計上したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は、236,362千円（前年同四半期は278,156千円の使用）となりました。これは主に、印刷関連の機械装置など有形固定資産の取得171,784千円、写真集関連のソフトウェア開発など無形固定資産の取得61,467千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は、130,467千円（前年同四半期は118,757千円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払120,907千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は41,393千円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,800,000
計	16,800,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年10月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年12月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,366,000	4,366,000	東京証券取引所 マザーズ	単元株式数は100株でありま す。
計	4,366,000	4,366,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年8月1日～ 平成25年10月31日		4,366,000		490,300		606,585

(6) 【大株主の状況】

平成25年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
福田 幸雄	広島県広島市西区	1,409,000	32.27
アスカネット従業員持株会	広島県広島市安佐南区祇園3丁目28-14	216,200	4.95
株式会社アスカネット	広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号	179,527	4.11
辻中 馨	東京都渋谷区	155,000	3.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	147,400	3.38
株式会社広島銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	広島県広島市中区紙屋町1丁目3-8 (東京都中央区晴海1丁目8-12晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	95,000	2.18
木原 伸二	広島県広島市南区	81,000	1.86
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	76,400	1.75
功野 顕也	広島県広島市中区	74,400	1.70
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4	68,100	1.56
計		2,502,027	57.31

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 179,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,184,800	41,848	
単元未満株式	普通株式 1,700		
発行済株式総数	4,366,000		
総株主の議決権		41,848	

【自己株式等】

平成25年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アスカネット	広島県広島市安佐南区祇 園3丁目28番14号	179,500		179,500	4.11
計		179,500		179,500	4.11

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成25年8月1日から平成25年10月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成25年5月1日から平成25年10月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年4月30日)	当第2四半期会計期間 (平成25年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,549,258	1,478,408
受取手形及び売掛金	503,435	535,842
商品及び製品	82,057	84,979
原材料	39,320	37,937
仕掛品	18,592	14,976
その他	80,575	86,534
貸倒引当金	3,251	5,325
流動資産合計	2,269,988	2,233,352
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	508,790	495,056
土地	432,702	432,702
その他(純額)	347,541	362,979
有形固定資産合計	1,289,035	1,290,738
無形固定資産	210,946	230,899
投資その他の資産	197,793	194,085
固定資産合計	1,697,775	1,715,723
資産合計	3,967,763	3,949,076
負債の部		
流動負債		
買掛金	85,567	98,312
未払法人税等	115,400	112,700
賞与引当金	108,200	111,300
その他	277,583	204,897
流動負債合計	586,750	527,209
固定負債		
退職給付引当金	9,996	8,192
その他	7,403	4,885
固定負債合計	17,399	13,077
負債合計	604,150	540,287
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	2,380,251	2,429,342
自己株式	122,635	122,635
株主資本合計	3,354,501	3,403,592
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	9,112	2,843
評価・換算差額等合計	9,112	2,843
新株予約権	-	2,353
純資産合計	3,363,613	3,408,788
負債純資産合計	3,967,763	3,949,076

(2)【四半期損益計算書】
 【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)
売上高	2,097,789	2,212,518
売上原価	1,037,549	1,108,350
売上総利益	1,060,239	1,104,167
販売費及び一般管理費	842,112	826,783
営業利益	218,127	277,384
営業外収益		
受取利息	934	810
受取配当金	284	339
受取手数料	274	292
為替差益	-	192
その他	997	492
営業外収益合計	2,491	2,126
営業外費用		
支払利息	498	14
為替差損	1,447	-
営業外費用合計	1,945	14
経常利益	218,673	279,496
特別損失		
固定資産除却損	1,506	1,450
特別損失合計	1,506	1,450
税引前四半期純利益	217,166	278,045
法人税等	84,447	107,547
四半期純利益	132,718	170,498

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	217,166	278,045
減価償却費	136,736	135,333
株式報酬費用	-	2,353
貸倒引当金の増減額（は減少）	617	2,072
賞与引当金の増減額（は減少）	2,350	3,100
退職給付引当金の増減額（は減少）	836	1,804
受取利息及び受取配当金	1,219	1,149
支払利息	498	14
為替差損益（は益）	3	2
固定資産除却損	1,506	1,450
売上債権の増減額（は増加）	21,138	32,407
たな卸資産の増減額（は増加）	3,211	2,077
仕入債務の増減額（は減少）	7,808	12,745
未払消費税等の増減額（は減少）	8,558	5,521
その他	18,819	1,678
小計	346,424	405,671
利息及び配当金の受取額	479	500
利息の支払額	454	3
法人税等の支払額	128,083	110,191
営業活動によるキャッシュ・フロー	218,366	295,976
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	5,000
定期預金の払戻による収入	-	5,000
有形固定資産の取得による支出	256,864	171,784
無形固定資産の取得による支出	30,540	61,467
貸付けによる支出	1,500	-
貸付金の回収による収入	150	200
その他	10,598	3,309
投資活動によるキャッシュ・フロー	278,156	236,362
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	34,500	8,723
配当金の支払額	83,379	120,907
自己株式の取得による支出	40	-
その他	836	836
財務活動によるキャッシュ・フロー	118,757	130,467
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	2
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	178,550	70,850
現金及び現金同等物の期首残高	934,842	944,258
現金及び現金同等物の四半期末残高	756,291	873,408

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理)

当第2四半期累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)
(税金費用の計算) 当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日)		当第2四半期累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)
給与手当	193,019千円	給与手当	205,987千円
賞与引当金繰入額	45,530	賞与引当金繰入額	48,686

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日)		当第2四半期累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)
現金及び預金	1,256,291千円	現金及び預金	1,478,408千円
預入期間が3か月を超える定期預金	500,000	預入期間が3か月を超える定期預金	605,000
現金及び現金同等物	756,291千円	現金及び現金同等物	873,408千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年7月27日 定時株主総会	普通株式	83,732	2,000	平成24年4月30日	平成24年7月30日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年7月26日 定時株主総会	普通株式	121,407	29.00	平成25年4月30日	平成25年7月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	メモリアル デザイン サービス事業	パーソナル パブリッシング サービス事業	エアリアルイ メージング事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	973,478	1,115,686	8,624	2,097,789		2,097,789
セグメント間の内部売上 高又は振替高						
計	973,478	1,115,686	8,624	2,097,789		2,097,789
セグメント利益又は損失 ()	303,107	131,077	40,676	393,507	175,380	218,127

(注) 1 セグメント利益の調整額 175,380千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	メモリアル デザイン サービス事業	パーソナル パブリッシング サービス事業	エアリアルイ メージング事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,032,859	1,167,092	12,566	2,212,518		2,212,518
セグメント間の内部売上 高又は振替高						
計	1,032,859	1,167,092	12,566	2,212,518		2,212,518
セグメント利益又は損失 ()	312,561	202,104	41,321	473,344	195,959	277,384

(注) 1 セグメント利益の調整額 195,959千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額(円)	31.70	40.73
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	132,718	170,498
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	132,718	170,498
普通株式の期中平均株式数(株)	4,186,577	4,186,473
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(円)		40.44
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)		29,497
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期累計期間は潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年12月9日

株式会社アスカネット

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴 田 良 智

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮 本 芳 樹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アスカネットの平成25年5月1日から平成26年4月30日までの第19期事業年度の第2四半期会計期間(平成25年8月1日から平成25年10月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成25年5月1日から平成25年10月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アスカネットの平成25年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。